

情報連絡員報告総括表(平成30年2月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 (臨時・パートを含む)			業界景況		
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化
製 造 業	食 料 品		3	1		4		1	3			4		2	2		3	1		4			4			2	2
	織 維 工 業		3			2	1	1	2			3		3			3			3			3			2	1
	木 材 ・ 木 製 品			1		1			1			1			1		1				1		1				1
	紙 ・ 紙 加 工 品	1	1		1	1		1	1		1	1		1	1		2			1	1		2			1	1
	印 刷		1			1			1			1		1			1			1			1			1	
	化 学 ・ ゴ ム																										
	窯 業 ・ 土 石 製 品	2	1			3			3		3			3			3		2	1			3			3	
	鉄 鋼 ・ 金 属	1				1			1		1		1			1			1				1		1		
	一 般 機 器	3			1	2			3		3		1	2			3		1	2		1	2		1	2	
	電 気 機 器	1				1			1		1		1			1			1			1			1		
	輸 送 機 器	1				1			1		1			1			1		1			1			1		
そ の 他																											
小 計	9	9	2	2	17	1	3	17			18	2	3	13	4	2	17	1	6	12	2	3	17		4	11	5
非 製 造 業	卸 売 業	1		1		1	1		1	1		2		1		1		2				2			1	1	
	小 売 業	3	1	2	3	1	2	2	4		5	1		3	3		3	3				5	1		3	3	
	商 店 街		1			1			1		1			1			1					1			1		
	サ ー ビ ス 業	1	3	1				1	4		5		1	3	1		4	1				5			1	4	
	建 設 業	1	2	1				1	3		1	3		1	3		1	3				3	1		1	3	
	運 輸 業	1							1		1			1			1						1			1	
	そ の 他		1						1		1			1			1					1			1		
小 計	7	8	5	3	3	3	4	15	1	1	18	1	3	12	5	1	15	4				17	3		2	14	4
合 計	16	17	7	5	20	4	7	32	1	1	36	3	6	25	9	3	32	5	6	12	2	3	34	3	6	25	9

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成29年2月～平成30年2月)

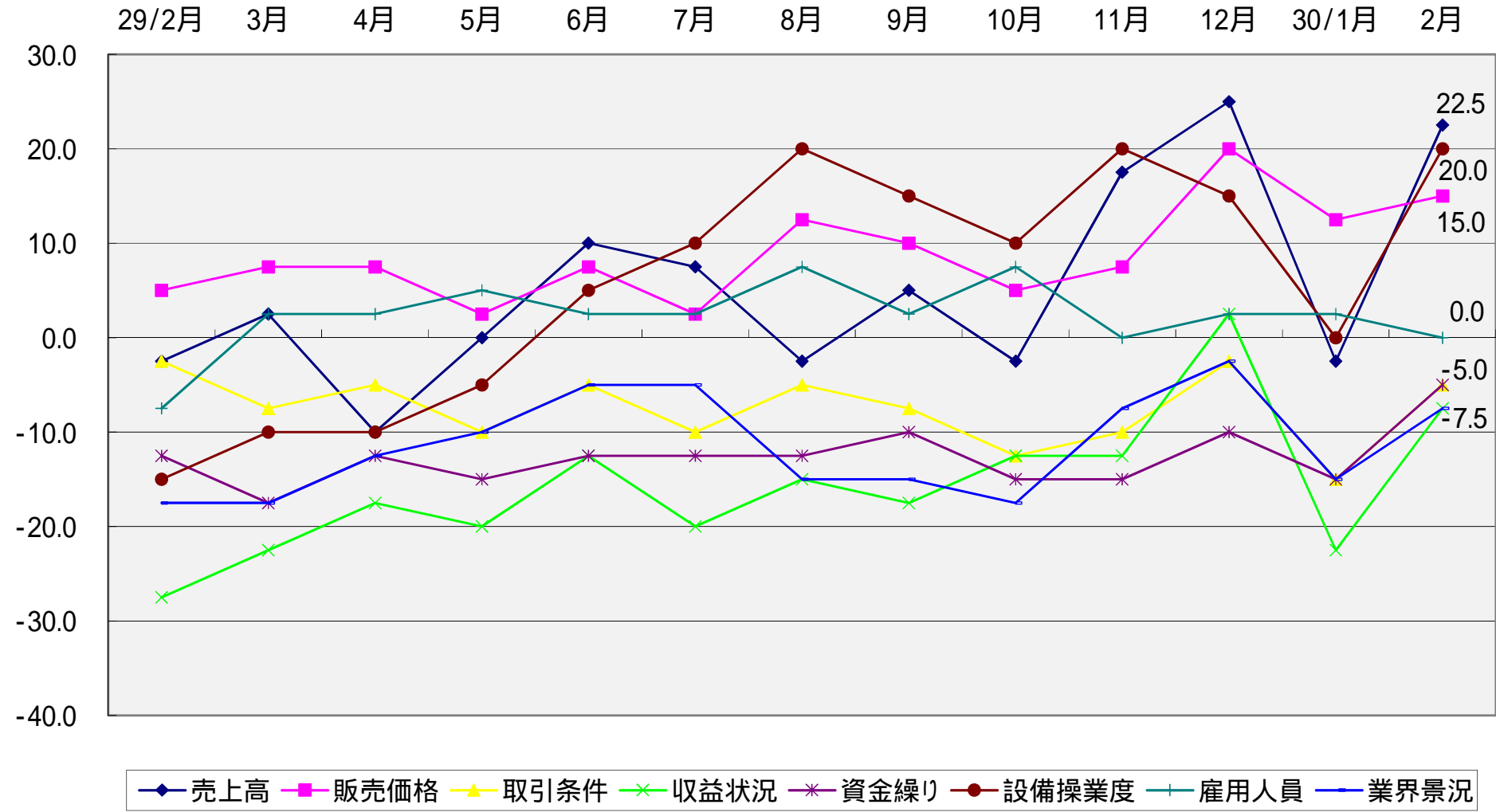
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	29/2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30/1月	2月	増減
売上高	-2.5	2.5	-10.0	0.0	10.0	7.5	-2.5	5.0	-2.5	17.5	25.0	-2.5	22.5	25.0
販売価格	5.0	7.5	7.5	2.5	7.5	2.5	12.5	10.0	5.0	7.5	20.0	12.5	15.0	2.5
取引条件	-2.5	-7.5	-5.0	-10.0	-5.0	-10.0	-5.0	-7.5	-12.5	-10.0	-2.5	-15.0	-5.0	10.0
収益状況	-27.5	-22.5	-17.5	-20.0	-12.5	-20.0	-15.0	-17.5	-12.5	-12.5	2.5	-22.5	-7.5	15.0
資金繰り	-12.5	-17.5	-12.5	-15.0	-12.5	-12.5	-12.5	-10.0	-15.0	-15.0	-10.0	-15.0	-5.0	10.0
設備操業度	-15.0	-10.0	-10.0	-5.0	5.0	10.0	20.0	15.0	10.0	20.0	15.0	0.0	20.0	20.0
雇用人員	-7.5	2.5	2.5	5.0	2.5	2.5	7.5	2.5	7.5	0.0	2.5	2.5	0.0	-2.5
業界景況	-17.5	-17.5	-12.5	-10.0	-5.0	-5.0	-15.0	-15.0	-17.5	-7.5	-2.5	-15.0	-7.5	7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成30年2月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	漬物	製造原価を引き上げている浅漬類の主原料である白菜等は、引き続き品薄状態である。各企業ともこれまでの製造経験を活用し、代替原料等による商品開発に積極的に取り組んでいる。特に、MS(meal solution)の日々の食事の中で抱える様々な悩みを解決する提案として、売上構成が低くとも、リピート率の高い商品について、量販店等での売り場確保などに工夫をこらしている事例も多く見受けられる。
		醤油味噌	イベント「三重しょうゆ街道」を開催する。イオン沖縄ライカムは、3月16日(金)～21日(水)の春分の日まで、イオン東員店では、4月13日(金)～15日(日)まで開催する。イオン尾平店では、昨年から常設コーナーで展示・販売されている。HACCPの第1回東海地区ブロック研修会が、2月8日(木)に名古屋で開催された。
		豆腐	原材料の大豆は、国産輸入ともに昨年に比べ、若干安値である。
		製麺	今月の業界の状況は、販売する場所によって、良い所と悪い所がはっきり分かれている。伊勢うどんに関しては、知名度を上げていけば、売れてくると確信している。また、今年も各種イベントに参加して伊勢うどんのPR活動に力を入れていく。
	繊維工業	テント	日本海側の大雪による交通マヒによって、材料や製品の入荷が遅れた。
	木材・木製品	木材	4月から多気町で大手合板工場が本格稼働することになり、バイオマス発電用の原材料も含めて、原木の安定供給体制の整備が大きな課題となっている。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	2月は昨年と同程度の販売量となった。ただ、段ボールの材料(仕入)の値上げは、1月から先行した。しかし、得意先への製品値上げは、3月1日、4月1日からの決定となり、一部持ち出しとなる。
		古紙	2月の取扱重量は、前年比：段ボール・約98±5%、新聞、チラシ・約94±5%、雑誌、雑紙、その他合わせて約94±5%の模様である。段ボール古紙の入荷は雪や寒さがあっても、前年以上の所もある。生産量減少と集荷方法の多様化で新聞古紙と雑誌古紙の入荷は前年割れである。各製紙会社も雪で2日～10日程の入出荷の影響が出たようであるが、生産は、フル操業の所が多い。しかしながら、各メーカーの古紙在庫は多い。中国の再生原料の輸入規制は、中国の旧正月明けでも続いており、日本からの古紙輸出価格は、更に大幅に下落した。今でも人手不足のところが多く、労働条件の改善も問題である。また、3%の昇給は、大きな課題である。
	印刷	印刷	例年通り年度末を迎え、活気が出てきた。しかしながら、官公庁等の入札は、相変わらず厳しい競争が続いている。また、3月末までに納品の案件が非常に多く、新年度に向けての努力が必要である。
	窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀焼伝統産業会館及び伊賀・信楽古陶館とも昨年並みの入館者数と売上であった。気温も3月となり、上がりはじめ、また、ガソリン価格も少し安くなってきたので、これから、来客者数も増加することを期待している。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、1月と同様であった。昨年度下期の全国生産量は、1.6%の増加、東海北陸ブロックでは、7.6%の減少、東海3県では、9.5%の減少、三重県の組合員企業では、16.3%の増加と地方により異なり、また、取り扱う製品によっても異なる。自動車関連は、若干の伸び、建築関連は、横ばいであり、その他に関しても横這いで若干の伸びといえる。
	一般機器	四日市	各組合員共にそれぞれの職種に工夫をしながら経営の向上と収益確保に努力している。事業継承や働き方改革、ワークライフバランス等々、人材確保も困難な状況や課題に直面している。
		伊勢	2016年12月に公正取引委員会及び中小企業庁から発表された「下請代金の支払手段について」の通達を受け、昨年度から大手企業からの支払いは、100%現金化される傾向にある。受注先の企業にとっての資金繰りは改善されているが、リーマンショックから10年が経過し、過去の教訓や今後、海外も含めた先行きに不透明感があるため、設備投資に慎重な企業も多く、地方では人手不足も深刻でアベノミクス等大胆な経済政策による恩恵や景況感はまだ感じられないという声が多い。
	電気機器	鳥羽	3月期末の追い込みで受発注共に好調である。ただし、原材料、特に鉄鋼材関係が値上がり状態であり、仕入納期がかかっている。
輸送機器	鈴鹿	軽自動車市場が引き続き好調なようだが繁忙な状態が続いているが、人手不足感には、若干の改善が見られた。年末年始には、求人募集に対して、全く反応がなかったが、1月下旬以降は応募があり、人材派遣業者からの紹介も増加した。	
小売業	青果	野菜：前半、低温で生育が伸びず、高値が長期化している。全体的に例年の3割以上高い。特にキャベツ・白菜・大根が高値である。シメジなどのきのこ類は安定している。後半も生育遅れが続く、入荷が少なく、高値である。春野菜の菜花、キヌサヤも生育不良で高い。ホーレン草・小松菜の入荷が増加し、例年並みである。果物：前半、キウイが豊作で、値段も安定している。デコポン・はるみ・伊予柑等種類が豊富に揃ってきた。イチゴは寒さで入荷量少なく、高値である。後半は、イチゴの入荷が増加し、先週に比べて2割程安いが、ひな祭りで再び値段が上がりそうである。青森産リンゴは、昨年より貯蔵量が少なく、値段が上がっている。	
	自転車	自転車	上旬に中部自転車ブロック会が愛知県にて開催された。しかし、大雪により、北陸三県は出席できず、東海県のみで開催となった。日商連事業として、平成30年度、全国自転車安全点検普及事業の件数割り当て並びに各事業の発表後、各県の情報交換では、どこも例年であれば、商品の確保を気にするところが、少子化による予約の台数減少が大きく取り上げられた。新入学向けの通学車が一番動くこの時期、各ショップとも2月末から3月にかけて、今後在庫を多く抱えることにもなるとの報告がある。

非製造業	小売業	電器	今年も2月に入り、物販では春の新生活需要の獲得に向け力を入れている。また、白物家電の高品質で高額品への買い替え需要を掘り起こして売上を伸ばしている。テレビでは、12月の4K8K本格放送に向けて、全体では不振な中において、好調な4K8K対応TVの拡売に力を入れている。一方、リフォーム関連の事業は、引き続き進めている。
		石油	2月度の燃料油販売数量の状況は、前年対比6%前後の減販であった。燃料油の中で灯油については、寒さの影響により、前年比5%の増販であったが、ガソリン販売数量の減販が7%減販の状況であった。収益についても、各元売りの値上げが中々浸透出来ない状況が続いた結果、厳しい状況に終わった。来月3月度については、タイヤ・オイル販売・車検販売のキャンペーンの販売促進強化において、収益改善を行ってきたい。
		スポーツ	この月は、新学期の為の準備月で小、中学校の体操服の受注に忙しくなる月である。来月は、月末に高校の体操服の受注が入る。いずれも我々組合員にとっては、年間を通して、売上額の上がる時である。
	商店街	熊野	商店街内に若手経営者の民泊施設が昨年から開業されており、インバウンドの外国人などを中心に賑わいをみせている。施設内では、食事、風呂の提供はないが、周辺の飲食店や居酒屋、銭湯と連携し、紹介をしているのが成功の要因かと感じる。今後も施設を増やす予定であり、今後の展開が楽しみなどころである。
	サービス業	旅館	初旬は、1月後半からの低調な流れのままであったが、中旬からの春節の一週間は、インバウンド（外国人旅行者）の中華圏からのFIT（個人旅行者）が各地で見かけられた。それに引っ張られたかのように日本人旅行者も多く、活況を呈して一週間であった。後半は、例年通りで、特に寒波の影響で雪のない三重県への行先振替え需要は、期待していたほどではなかった。
		警備	繁忙期で警備の需要が多くあるが、警備員不足で受注に応じかねない状況である。
	建設業	内装工事業	2月分は、対前年同月比でやや増加となった。年度末の流れで、前年並みの推移が予想される。
		水道工事業（四日市）	今月は、特に大きな動きは見られなかった。予想していた通り、平昌オリンピックの影響は何もなかった。仕事量は年度末に向け、増加傾向にある。
	運輸業	トラック	売上高は、やや上昇したが、燃料価格の値上げで、収益に結びついていない。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	
食料品	製麺	HACCP活動を中心に勉強会を開いていく。
一般機器	四日市	抜本的な経営対策が実行されぬまま、中小企業は、「自助努力」あるのみである。本当の政治を行ってほしい。
サービス業	旅館	インバウンドのゴールデンルートが、都市集中から少しずつであるが、地方へ足が向いてきたようで、この傾向を更に推進するような整備が必要である。特にFITが気軽に安心して来ていただけるような情報提供等に軸足を置いた整備をしていくことが必要である。